四国災害アーカイブス

アーカイブスあらかると

Vol.58～69（2017 年 4 月～2018 年 3 月）

一般社団法人　四国クリエイト協会

はじめに

四国災害アーカイブスは、過去に四国各地で発生した災害に関する情報を収集、整理し、地域防災力の向上のためにできるだけ多くの人々に活用してもらえるようインターネットを通じて情報を提供するものです。平成 24 年 7 月に部分的運用として地震・津波の情報提供を開始し、平成 25 年 7 月からは第二弾として土砂災害、渇水の情報を追加、平成 26 年 7 月よりすべての災害種類の情報を提供する本格的な運用を行っています。

「アーカイブスあらかると」は、皆さまに少しでも四国災害アーカイブスへの関心を持っていただくために、平成 24 年 7 月以来、毎月、四国災害アーカイブスのＷＥＢサイトに掲載してきたコラムです。この冊子には平成 29 年度分 Vol.58～67（2017 年 4 月～2018 年 3 月）のコラムを編集して収録しています。

この冊子が多くの人に活用され、四国災害アーカイブスが四国の地域防災力の向上に少しでも役立つことを願っています。

平成 30 年 4 月

一般社団法人　四国クリエイト協会

理事長　　工藤　建夫

目　　次

■Vol.58（2017年4月）解決策を見出す・・・・・・・・・・・・・・ 1

・田渡池の堤防を嵩上げする（香川県高松市）

・赤坂泉をつくる（愛媛県砥部町）

■Vol.59（2017年5月）堤防を築く・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

・石手川に堤防を築く（愛媛県松山市）

・旧吉野川と今切川に堤防を築く（徳島県北島町）

■Vol.60（2017年6月）浸水位を示す・・・・・・・・・・・・・・・ 9

・徳島市役所前の水位標（徳島県徳島市）

・土佐市消防署前の浸水位（高知県土佐市）

■Vol.61（2017年7月）道路災害・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

・柳谷地区の斜面崩壊（愛媛県久万高原町）

・横倉の斜面崩壊（高知県越知町）

■Vol.62（2017年8月）雨乞い踊り・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

・宇都宮神社の千人踊（愛媛県内子町）

・加茂神社の綾子踊（香川県まんのう町）

■Vol.63（2017年9月）昭和51年の台風17号・・・・・・・・ 21

・谷尻地区の土砂災害（香川県小豆島町）

・円行寺地区の土砂災害（高知県高知市）

■Vol.64（2017 年 10 月）土石流・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
・古宮・口山地区の土石流（徳島県美馬市）
・笠松地区の土石流（香川県東かがわ市）
■Vol.65（2017 年 11 月）庄屋、村人を思う・・・・・・・ 29
・今城宇兵衛（愛媛県四国中央市）
・中平宗兵衛（高知県四万十市）
■Vol.66（2017 年 12 月）後世に伝える・・・・・・・・・・・ 33
・南海震災史碑（徳島県牟岐町）
・津波之碑（高知県須崎市）
■Vol.67（2018 年 1 月）碑文を蘇らせる・・・・・・・・・・ 37
・浅川天神社の安政南海地震津波碑（徳島県海陽町）
・原町地蔵堂の南海地震記録碑（高知県須崎市）
■Vol.68（2018 年 2 月）徳をたたえる・・・・・・・・・・・・ 41
・小津森池を増築した土岐六蔵（香川県丸亀市）
・俵原池を築いた松田喜三郎（愛媛県松山市）
■Vol.69（2018 年 3 月）堤防への思い・・・・・・・・・・・・ 45
・海部川の奥浦堤防（徳島県海陽町）
・鴨部川の堤防（香川県さぬき市）

■四国災害アーカイブスの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

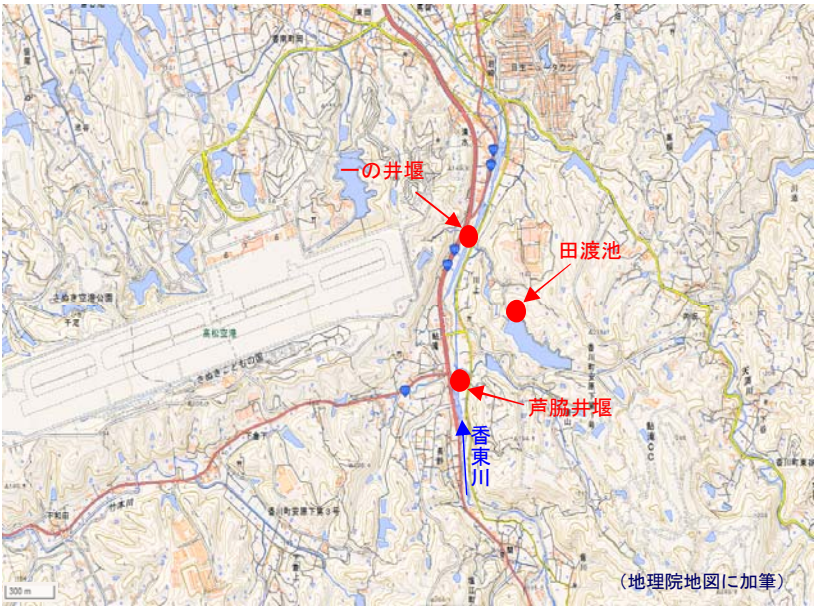
解決策を見出す

少ない水を奪い合う時、水争いが起こります。対立する状況を変えるためには、置かれた条件の中で水源を確保するなど、解決のための新たな道を切り開く必要があります。香川県高松市と愛媛県砥部町の例をご紹介します。

■田渡池の堤防を嵩上げする（香川県高松市）

香東川の芦脇井堰をめぐって、干ばつ時に水争いがたびたび起こりました。寛政 6 年（1794）の大干ばつ時にも、芦脇井堰から水を引き入れる川東の人々が取入水路を深掘りしたため、芦脇井堰の下流にある一の井堰掛かりの川西で水廻りが悪くなり、水争いが起こりました。解決のため、高松藩では寛政 8 年（1796）から田渡（たわたり）池の堤防を嵩上げして、同 10 年には増えた貯水池の水を川東 3 対川西 7 の割合で配分する策を講じたため、芦脇井堰をめぐる川東と川西の対立は小康状態となりました。その後も水争いが続きましたので、根本的な解決には至りませんでしたが、田渡池の堤防嵩上げで解決を図ろうとした藩の考えには学ぶことがあります。＜参考資料：香川町誌編集委員会編「香川町誌」1993 年及び讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000 年など＞

芦脇井堰
copyright©2013四国災害アーカイブス


一の井堰
田渡池
芦脇井堰
香東川
高松空港
さぬきこどもの国
300 m

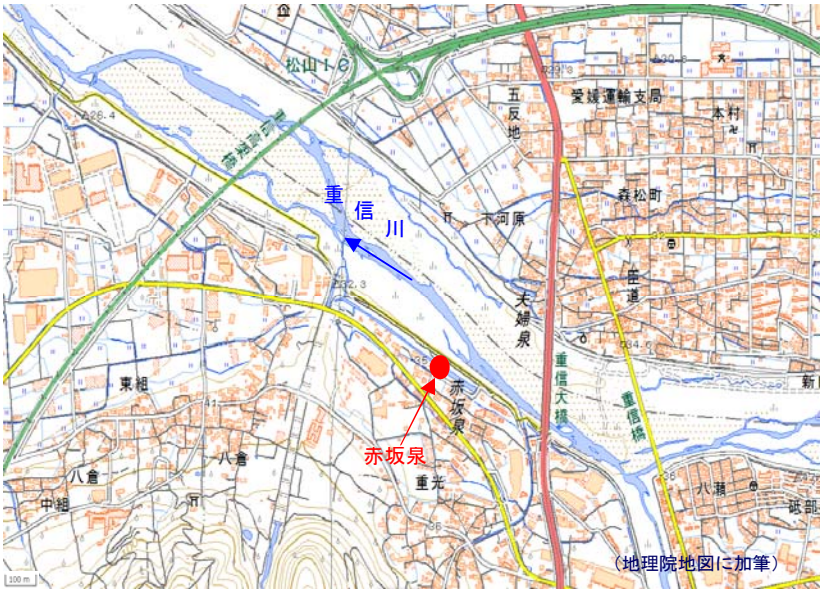
（地理院地図に加筆）

Vol. 58(2017 年 4 月）解決策を見出す②

■赤坂泉をつくる（愛媛県砥部町）

明和 8 年（1771）の大干ばつ時に、重信川からの取水をめぐって、南神崎村・徳丸村・出作村・八倉村・上野村の下 5 ヶ村と上手の上･下麻生村の間で水争いが起こりました。矢取川の河原での乱闘により 2 人の死者が出て、事件の責任を負った下麻生村の組頭窪田兵右衛門が死罪となったことを機に､重信川の伏流水を利用して赤坂泉がつくられることになりました｡釣吉村庄屋の阿部万左衛門がこの難工事の世話人となり、安永 3 年（1774）年に赤坂泉の開鑿に着手し、延べ数十万人の労力が投じられて寛政 10 年（1798）にほぼ今の形に完成しました。泉ができて、水争いは解消されることになりました。＜参考資料：砥部町誌編纂委員会編「砥部町誌」1978 年及び愛媛県土地改良事業団体連合会編「愛媛の土地改良史」1986 年など＞

赤坂泉
copyright©2013 四国災害アーカイブス


松山ＩＣ
愛媛運輸支局
五反地
本村
森松町
重
信
川
下河原
夫婦泉
赤坂泉
重信大橋
重信橋
東組
八倉
中組
重光
八瀬
赤坂泉
（地理院地図に加筆）

堤防を築く

自分の財産を投じて堤防を築く人がいました。財力のある人が皆、そのような行いをするのではありません。人の役に立ちたいという思いが根本にあるものと思われます。愛媛県松山市と徳島県北島町の人の例をご紹介します。

■石手川に堤防を築く（愛媛県松山市）

足立重信が重信川の改修と石手川の付替えを行って以降、重信川と石手川が出合う市坪はたびたび洪水に見舞われるようになりました。元和 6 年（1620）の洪水時にも被害を受け、市坪村の郷士・安長九郎左衛門は、村民の難儀を見るにつけ、自分の財産から米 3 千俵を村民に出役米として差し上げ、石手川の土手東西 300 間を修築しました。承応元年（1652）の洪水でも再び堤防が切れたため、九郎左衛門は残りの財産を投げ出して村民を激励して復旧に努めました。それにもかかわらず、延宝 6 年（1678）にも堤防が決壊したため、もはや財産のない九郎左衛門は松山藩に訴書を差し出しました。藩はこれまでの九郎左衛門の慈悲の行いを認め、堤防の完成を援助しました。この堤防は「安長堤」と呼ばれるようになりました。＜参考資料：郷編集委員会編「たちばなの郷」2003 年など＞

安長堤跡 copyright©2013 四国災害アーカイブス

安長堤の標識 copyright©2013 四国災害アーカイブス

Vol.59（2017.5.20）堤防を築く②

■旧吉野川と今切川に堤防を築く（徳島県北島町）

北島町は、旧吉野川と今切川にかこまれた平地で、ひょうたんのような形をしています。慶応2年（1866）8月の大水では各地で堤防が切れ、鯛浜付近では損田15町歩、家屋の倒壊・流失数十戸、流死数十人などの被害が出ました。当時の堤防は低かったため、大水の度に被害を受けていました。鯛浜村の新見嘉次郎は、困り果てた村人の様子を見て大きな堤防を築くことを決意し、里長や7か村の庄屋に熱心に説いて同意を得ることができました。嘉次郎は自らの財産を投げ出して工事費用に充て、村人とともに明治4年（1871）から工事を始め、翌年に北島町をとりまく大工事を完成させました。鯛浜には新見嘉次郎の功績碑が建立されています。＜参考資料：板野郡教育会「板野郡誌」1926年及び北島町学校教育研究会小学校社会科副読本編集委員会編「わたしたちの北島町」2010年など＞

新見嘉次郎の功績碑
Copyright©2013 四国災害アーカイブス

旧吉野川
令切川
新見嘉次郎の功績碑
吉野川
北島町
松茂町
（地理院地図に加筆）

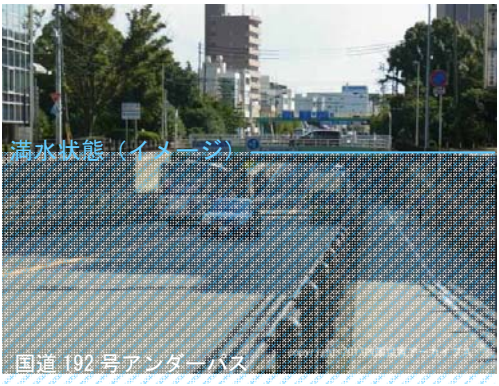
Vol.60（2017.6.20）浸水位を示す①

浸水位を示す

高潮や洪水により、普段はそんなところまで水が来るはずはないと思うところまで浸水することがあります。浸水位を表示して人々に知らせることは水害への意識を高めます。徳島県徳島市と高知県土佐市の例をご紹介します。

■徳島市役所前の水位標（徳島県徳島市）

昭和 36 年（1961）9 月 16 日、第二室戸台風が室戸に上陸した後、徳島県東部を通って阪神間に抜けました。徳島市では満潮と重なり、高潮被害に見舞われ、被害は全半壊約 470 戸、床上・床下浸水約 35,000 戸に及びました。津田地区では低地帯のほとんどが浸水被害を受けましたが、高潮による水面の上昇が早く、畳や家財道具などを持ち上げる間がないほどでした。また、幸町の国道 192 号アンダーパスは高潮により水没し、満水状態になりました。近くの徳島市役所前に設置されている水位標によると、水位は地面から約 93cm の高さに達しています。＜参考資料：徳島市津田コミュニティ協議会・津田公民館編「津田の歴史・史跡めぐり」2012 年及び徳島県史編さん委員会編「徳島県史第 6 巻」1967 年＞


満水状態（イメージ）
国道 192 号アンダーパス

第二室戸台風水位標
徳島市役所前の水位標

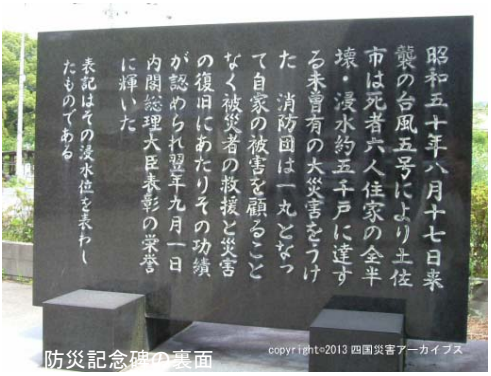
国道 192 号
アンダーパス
徳島市役所
徳島市
北田宮
上吉野町
小松
佐古駅
佐古
徳島駅
住吉
城東町
金沢
吉野川
北沖洲
末広
昭和町
中津浦
二軒屋駅
沖洲
新浜町
山城町
津田町
八万町
文化の森駅
三軒屋町
論田町
500 m
（地理院地図に加筆）

Vol.60（2017.6.20）浸水位を示す②

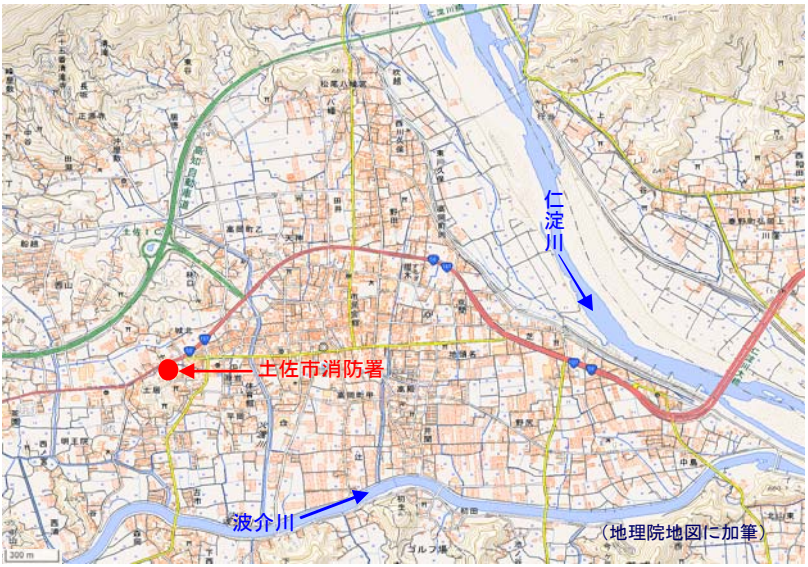
■土佐市消防署前の浸水位（高知県土佐市）

昭和 50 年（1975）8 月 17 日、宿毛市付近に上陸した台風 5 号は、仁淀川上流を中心に集中豪雨をもたらしました。土佐市では、鳴川・天崎・末光の山崩れ、用石堤防の決壊、用石・高岡市街地・家俊付近の浸水などにより、被害は死者 6 人、負傷者 74 人、家屋全壊 26 戸、家屋半壊 72 戸、床上浸水 2,255 戸、床下浸水 2,100 戸などに及びました。用石堤防が 100mにわたって決壊したため、急激な増水で家財道具などを持ち出す間もなく、中には二階にまで浸水した家さえありました。高岡では市民病院、老人ホームも浸水しました。土佐市消防署前の防災記念碑には、この時の浸水位（地面から約 66cm の高さ）が刻まれています。
＜参考資料：土佐市史編集委員会編「土佐市史」1978 年など＞

防災記念碑



防災記念碑の裏面



（地理院地図に加筆）

道路災害

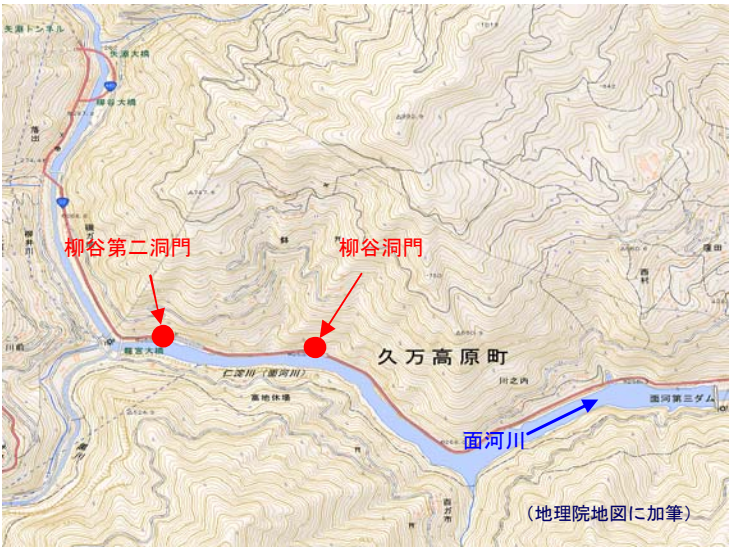
多雨地帯を通る四国の道路では、斜面崩壊などにより道路災害が発生することがあります。事前の対策や通行規制等により人的被害が起こらないことが望まれます。愛媛県久万高原町と高知県越知町の例をご紹介します。

■柳谷地区の斜面崩壊（愛媛県久万高原町）

昭和 54 年（1979）7 月 20 日、愛媛県柳谷村の国道 33 号で約 3,000 ㎥の斜面崩壊があり、崩落物が路面を覆いました。この現場は昔から崩壊の著しい地域で当時洞門の建設計画が進められていましたが、この年の 4 月に国道面から約 70m 上方の斜面でクラックが発見されたため、梅雨期に備えて観測及び監視体制が強化され、豪雨により 6 月 29 日以降全面通行止めの措置が取られていました。このため、斜面崩壊による人的被害は起こりませんでした。同地区では、8 月 27 日にも台風 11 号の影響により集中豪雨があり、約 1,000 ㎥の斜面崩壊が起こりましたが、この時も事前に全面通行止めが行われていました。＜参考資料：建設省四国地方建設局松山工事事務所編「一般国道 33 号柳谷地区における斜面崩壊の記録」1982 年など＞

柳谷洞門
copyright©2013 四国災害アーカイブス

柳谷第二洞門
copyright©2013 四国災害アーカイブス


柳谷第二洞門
柳谷洞門
久万高原町
面河川
（地理院地図に加筆）

Vol.61（2017.7.20）道路災害②

■横倉の斜面崩壊（高知県越知町）

昭和 36 年（1961）12 月 11 日、高知県越知町の横倉で斜面崩壊が発生しました。崩土量は 1 万 5,000 ㎥、山頂より仁淀川の右岸底まで達する大崩壊で、国道 33 号は交通途絶となりました。迂回路もなく年末を控えていることなどから、川の中に延長 1.5km の道路を造成して交通の確保を図ることとし、昼夜兼行の突貫工事で迂回道路の造成が行われた結果、一週間で通行可能となりました。崩壊地点には一次改築完了の後、洞門 2 箇所が設けられました。この崩壊を受けて、現道拡幅による国道 32 号・33 号の路線の設計にあたっては、切土と盛土のバランスの方針が見直され、切土を極力減じて、川側へ擁壁を張り出す工法が採用されるようになりました。＜参考資料：四国の建設のあゆみ編纂委員会編「四国の建設のあゆみ」1990 年など＞

横倉洞門
横倉洞門
copyright©2013 四国災害アーカイブス

仁淀川
横倉洞門
（地理院地図に加筆）

Vol.62（2017.8.20）雨乞い踊り①

雨乞い踊り

雨乞い踊りに関する過去の記録を読むと、踊りに参加する人は正装したり、身を清めるなどして、神聖な気持ちで臨んでいたことが分かります。真剣さが伝わります。愛媛県内子町と香川県満濃町の例をご紹介します。

■宇都宮神社の千人踊（愛媛県内子町）

文久元年（1861）は、5 月 9 日から毎日天気が続き、組々では雨乞いの祈祷などを度々行いましたが、効果がないため、7 月 20 日に大瀬、村前、五百木、城廻の四か村が宇都宮神社で千人踊を行うことになりました。「五百木村城廻村永代記録」によると、組々への事前の連絡には、「午前二時揃いで、庄屋は裃をつけ、組頭は袴をはき、五人組は脇差しをさして拍子木を持参し、百姓は蓑笠を持参すること」など詳細な注意書きが記されています。千人踊に参加した総人数は、四か村でおよそ 1,340 人、たしかに千人を超えた雨乞い踊りでした。千人踊のおかげでしょうか、7 月 21 日、22 日によい潤いがあり、お礼踊りを組々で考え、踊ったり、お籠もりなどをしたと記録されています。
＜参考資料：内子町誌編纂委員会編「新編内子町誌」1995 年など＞

宇都宮神社

千人踊が奉納された宇都宮神社境内

（地理院地図に加筆）

Vol.62（2017.8.20）雨乞い踊り②

■加茂神社の綾子踊（香川県まんのう町）

昭和 14 年（1939）は大干ばつのため、8 月 3 日に香川県が各市町村に対して雨乞い祈願を執行するよう通達しました。仲南町（現まんのう町）佐文の加茂神社と竜王山では 8 月 17 日に綾子踊が奉納されました。当時 14 才であった少年の日記には次のように記されています。「今日は総踊りの日なり、生れて始めて紋付の着物に袴を着用せり、紙緒の草履も父が念入りに作ってくれたり。午前八時頃王尾村長様宅に集合、神事場にて一踊り、加茂神社にて行列を整え龍王山に向かい山を登る。神前にて一踊り雨を祈り力一杯踊る。帰りて加茂神社にて二踊りなすも見物人多く盛観なり」9 月に入り降雨があり、9 月 11 日に加茂神社でお礼踊りが奉納されました。＜参考資料：綾子踊の里佐文誌編集委員会編「綾子踊の里佐文誌」1980 年及び仲南町誌編集委員会編「仲南町誌」1982 年＞

加茂神社

加茂神社の綾子踊碑

昭和 51 年の台風 17 号

昭和 51 年（1976）9 月 8 日～13 日、台風 17 号が九州南西海上に停滞したため、南から湿った空気が流れ込み、四国各地は記録的な豪雨に見舞われました。広範囲にわたって甚大な水害や土砂災害が発生し、災害復旧工事が行われました。香川県小豆島町と高知県高知市の土砂災害の例をご紹介します。

■谷尻地区の土砂災害（香川県小豆島町）

昭和 51 年（1976）の台風 17 号により、池田町（現小豆島町）四方指では 9 月 8 日～13 日の降雨量が 1,401 ミリを観測し、特に 11 日には年間雨量の約半分近くの 522 ミリの雨が降りました。このため、11 日午後 11 時 20 分に谷尻地区の白浜山の山腹が崩壊し、土石流が谷尻地区を襲い、海岸の谷尻漁港西側にまで達しました。この土石流により、民家 21 戸が押し流され、24 人の命が失われました。被災地の復旧防災工事は災害直後より町と県が一体となって着手し、昭和 54 年に完了しました。谷尻漁港に記念之碑が建立されています。＜参考資料：池田町災害の記録編集委員会編「昭和 51 年 9 月台風 17 号の災害と復旧の記録」1979 年及び小豆島町編「小豆島災害の記憶」2014 年など＞

谷尻の記念之碑　copyright©2013四国災害アーカイブス

Vol.63（2017.9.20）昭和 51 年の台風 17 号②

■円行寺地区の土砂災害（高知県高知市）

昭和 51 年（1976）の台風 17 号により、高知市では 9 月 8 日～13 日に年間雨量の約半分の大雨が降りました。鏡川の随所で濁流が溢水し、中央部はほぼ全域が浸水する事態となりました。鏡川が堤防決壊の危険にさらされる中で、高知市長は非常事態宣言を発し、全市民に避難を促しました。円行寺地区では、大谷山の大崩壊により、円行寺川を土石流が流れ、赤井谷の民家 8 戸 32 棟が流失・埋没し、流域の耕地約 5.2ha が砂れきと化すなど甚大な被害を受けました。地元住民は公民館活動で災害対策委員会を結成するなどして、国、県、市に災害復旧工事を働きかけ、昭和 54 年に工事が完成しました。円行寺遊園地に災害復旧記念之碑が建立されています。＜高知市史編纂委員会編「稿本高知市史現代編」1995 年及び高知市円行寺公民館編「昭和 51 年 17 号台風災害誌」1980 年＞

円行寺の災害復旧記念之碑　©2013四国災害アーカイブス

Vol. 64（2017.10.20）土石流①

土石流

台風や集中豪雨などで大雨が降ると、山腹や川底の土砂と水が一体となって一気に渓流や斜面を流れ下ることがあります。土石流です。山津波ともいいます。徳島県美馬市と香川県東かがわ市の例をご紹介します。

■古宮・口山地区の土石流（徳島県美馬市）

昭和 51 年（1976）9 月 8 日から 13 日にかけて来襲した台風 17 号により、穴吹町（現美馬市）は豪雨に見舞われ、未だかつてない大きな被害を受けました。なかでも古宮・口山地区の被害は甚大でした。古宮地区の山間部の降雨量は約 2,000 ミリに達したため、小河川は山腹の崩壊によって氾濫し、土砂を巻き込み土石流となり、河床は堆積土砂で持ち上げられました。古宮や口山では山腹の崩壊や河川の氾濫によって、家屋が押しつぶされたり、流されたりして、被害は死者 1 人、行方不明者 1 人、住家の全壊 78 棟、半壊 48 棟、床上浸水 37 棟、床下浸水 122 棟などに及びました。町では激甚災害の指定を受け、復旧工事を行いました。古宮に災害復旧記念碑が建立されています。＜穴吹町誌編さん委員会編「穴吹町誌」1987 年及び穴吹町編「災害とたたかう台風 17 号記録」1979 年＞

古宮の災害復旧記念碑

（地理院地図に加筆）

Vol. 64（2017.10.20）土石流②

■笠松地区の土石流（香川県東かがわ市）

平成 16 年（2004）10 月 20 日昼前、台風 23 号の接近により、香川県東部の山間部を中心に激しい雨となり、夕方まで降り続きました。東かがわ市の日下峠では、最大時間雨量 116 ミリ、累計雨量 674 ミリを記録しました。この豪雨により、東かがわ市水主（みずし）の笠松地区では、笠松川やその他渓流で土石流が発生し、家屋の全壊 6 棟、半壊 1 棟、流出 3 棟、床上浸水 1 棟、床下浸水 10 棟という大きな被害が発生しました。幸い人的被害はありませんでした。香川県では砂防事業を実施し、工事箇所隣接地に災害の記憶を風化させないために、「あの日を忘れない」碑を建立しました。＜香川県土木部河川砂防課編「証言あの日を忘れない平成 16 年香川県土砂災害の記録」2006 年及び香川県土木部河川砂防課編「平成 16 年土砂災害復興の記録」2009 年など＞

笠松川の「あの日を忘れない」碑 copyright©2013四国災害アーカイブス

（地理院地図に加筆）

庄屋、村人を思う

災害や飢饉が起きると、庄屋は藩に対して年貢の減免を要請するなど村人の負担を軽減するために働きました。時には命を懸けることもありました。愛媛県四国中央市と高知県四万十市の庄屋の例をご紹介します。

■今城宇兵衛（愛媛県四国中央市）

愛媛県豊田村（現四国中央市）は、豊岡川の洪水などでたびたび水害に見舞われていました。庄屋の今城宇兵衛は、享保 13 年（1728）から豊岡川の堤防工事に取りかかり、災害に遭いながらも村人の協力も得て享保 17 年に完成させました。しかし、堤防が完成した年は天候不順が続き、享保の飢饉が起こりました。蓄えの少ない豊田村では餓死者が増え、宇兵衛は村人の救済のため松山藩の代官所に請願を繰り返しましたが、打開の道が開かれないため、江戸表へ直訴する計画を立てました。これが代官所に密告され、宇兵衛は捕らえられて、享保 19 年（1734）に処刑されました。処刑の数日後、宇兵衛の願いが叶い減租が実現しました。宇兵衛は今城神社に祀られています。＜伊予三島市史編纂委員会編「伊予三島市史上巻」1984 年及び四国中央市教育委員会編「ふるさと宇摩の人々」2011 年＞

今城神社

（地理院地図に加筆）

Vol. 65（2017.11.20）庄屋、村人を思う②

■中平宗兵衛（高知県四万十市）

元禄 13 年（1700）から元禄 15 年にかけて、高知県国見村（現四万十市）では中筋川の洪水などのために凶作に見舞われました。庄屋の中平宗兵衛は、田や屋敷を売るなど困窮する村人の姿を見て、宝永元年（1704）の検見の時に役人に作柄の良くない凶作地ばかりを見せて、少しでも年貢を減らしてもらおうと計画しました。これは、宗兵衛が村人のためを思った、止むに止まれぬ苦肉の策でした。ところが、村人の一人がその計らいを役人に告げたため、宗兵衛は捕らえられ、翌年斬罪に処せられました。この宗兵衛の死は藩の考えを改めさせる契機となり、その後国見の土地は明治 9 年（1876）の地租改正まで捨地（免租地）となりました。村人は宗兵衛の徳を慕い、若宮神社にその霊を祀り、現在は天満宮に合祀されています。（上岡保次郎「義民中平宗兵衛」土佐史談第 61 号、1937 年など）

（地理院地図に加筆）

後世に伝える

四国では周期的に南海地震が起こり、津波の襲来が繰り返されてきました。碑に津波の歴史や教訓を刻し、後世に伝える取り組みが各地で行われています。徳島県牟岐町と高知県須崎市の例をご紹介します。

■南海震災史碑（徳島県牟岐町）

昭和 21 年（1946）12 月 21 日、南海地震とそれに伴う津波により、牟岐町では死者・行方不明 51 人、家屋被害 1,774 棟の他、漁船、漁具、田畑などに甚大な被害が発生しました。日頃から地震・津波に備えることの大切さを後世に伝えるため、昭和南海地震から 50 年目の平成 8 年（1996）12 月 21 日に、大牟岐田の児童公園内に「牟岐町における南海震災史碑」が建立されました。裏面には、昭和南海地震による津波の状況とともに、白鳳年間（684 年）の津波以来、正平（1361 年）、慶長（1605 年）、宝永（1707 年）、安政（1854 年）、昭和（1946 年）と繰り返し牟岐町を襲ってきた津波の歴史が記録されています。＜牟岐町史編集委員会編「牟岐町史」1976 年及び牟岐町教育委員会編「南海道地震津波の記録　海が吠えた日」1996 年＞

牟岐町における南海震災史碑

牟岐町における南海震災史碑（裏面）

（地理院地図に加筆）

Vol. 66（2017.12.20）後世に伝える②

■津波之碑（高知県須崎市）

昭和 21 年（1946）12 月 21 日、南海地震に伴い津波が襲来しました。第一波の津波は地震発生後約 10 分で到達し、その後津波は 20 分位の周期で 6、7 回襲ったとされています。須崎市の被害は死者 58 人、行方不明 3 人、負傷者 140 人、家屋の全壊 198 戸、半壊 563 戸、流失 168 戸、浸水 1,315 戸、焼失 9 戸、田畑の浸水 398 町、船舶の流失 683 隻等に及びました。昭和 40 年（1965）に須崎橋交差点に「津波之碑」が建立されました。碑の裏面には、宝永 4 年（1707）の津波、昭和 21 年（1946）南海地震による津波、昭和 35 年のチリ津波（1960）の様子が記され、繰り返されてきた津波の恐ろしさを後世に伝えています。＜須崎市史編纂委員会編「須崎市史」1974 年及び須崎市編「南海・チリー地震津波録　海からの警告」1995 年）＞

津波之碑
copyright©2013 四国災害アーカイブス

津波之碑（裏面）
copyright©2013 四国災害アーカイブス

城山
港町
須崎駅
須崎港
津波之碑
文化会館
原町
西紺屋町
泉町
栄町
横町
幸町
東古市町
新町
中町
南古市町
浜町
西町
富士ヶ浜
土佐藩砲台跡
笠越
多ノ郷
海蔵寺山
（地理院地図に加筆）

碑文を蘇らせる

災害の記録や教訓を伝える石碑が長い間に風化して、碑文が判読できなくなることがあります。このため、石碑をつくりかえるなどして、先人の思いを次の世代に伝える取り組みが行われています。徳島県海陽町と高知県須崎市の例をご紹介します。

■浅川天神社の安政南海地震津波碑（徳島県海陽町）

海陽町浅川の天神社境内には安政南海地震津波碑が建っています。旧碑の石文が判読困難になったため、平成 6 年（1994）11 月に再建されました。安政の津波碑文には、安政元年（1854）11 月 4 日辰刻（午前 7 時～9 時頃）地震が起こり、巳刻（午前 9 時～11 時頃）には汐が狂ったように道路まで打ち込んできたので、人々は山上に逃げ登ったことや、翌 5 日申刻（午後 3 時～5 時頃）大地震が起こり、その後高さ 3 丈（約 9m）の大波が射った矢のような早さで打ち寄せ、その夜は大汐が何度も襲ってきたため、天満宮・大年・御崎の三社、浅川浦の三つの寺は残ったものの、その他の家はすべて流失したが、用心していたので村中にけが人はなかったことなどが記されています。＜海南町史編さん委員会編「海南町史下巻」1995 年など＞

天神社の安政の津波碑文

浅川の天神社

（地理院地図に加筆）

Vol. 67（2018.1.20）碑文を蘇らせる②

■原町地蔵堂の南海地震記録碑（高知県須崎市）

須崎市原町の地蔵堂境内には南海地震記録碑が再建されています。昭和 34 年（1959）8 月に建てられた石碑が風化したため、つくりかえられたものです。碑の裏面には、昭和 21 年（1946）12 月 21 日午前 4 時過ぎに大地震が起こり、震動 18 分が終わって約 20 分後に最高潮が平地で 8 尺に及ぶ大津波が来たため、倒壊家屋 132 戸、流失 45 戸、溺死者 53 人の被害が出たことが記されています。さらに注意書きとして、地震直後は火の始末をすること、津波の時には速やかに山手に避難することなどが刻まれ、最後に「災難は忘れた頃にやって来る」と結んでいます。＜大家順助編「須崎消防の歩み　第 2 巻　自然災害の記録」高幡消防組合須崎消防団本部、1985 年など＞

地蔵堂の南海地震記録碑

原町の地蔵堂

（地理院地図に加筆）

Vol. 68（2018.2.20）徳をたたえる①

徳をたたえる

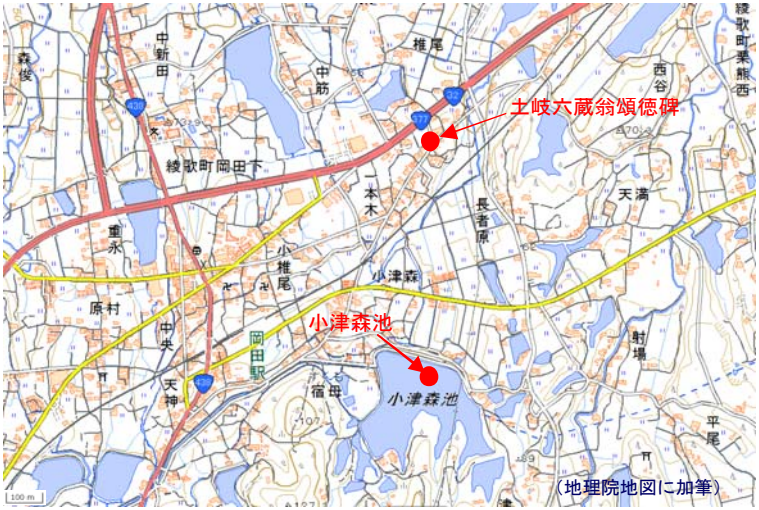
人が困っているのを見て、何とかしようとする人がいます。後になって、その人の功績をたたえる人々がいます。香川県丸亀市と愛媛県松山市の例をご紹介します。

■小津森池を増築した土岐六蔵（香川県丸亀市）

丸亀市綾歌町の小津森（こづもり）池は寛文 12 年（1672）に矢延平六によって築造され、文政年間（1818～1830）には大庄屋木村又左衛門らによって嵩上げ工事が行われましたが、貯水量は 20 万トン程度でした。水が足りないため、水田の 4 割には綿や甘藷が作付けされていました。明治 27 年（1894）の干ばつにより水稲が枯死するのを見て、岡田に住む土岐六蔵は小津森池の増築を決意しました。堤防を 4.5m嵩上げする工事は、明治 27 年 9 月に始まり、翌年 3 月に竣工しました。要した人夫は 4 万 4 千人余で、工費の大部分は土岐が工面しました。嵩上げ工事により貯水量は 52 万トンに増え、盛んに水稲栽培が行われるようになりました。先覚者の徳をたたえるため、昭和 30 年（1955）に土岐六蔵翁頌徳碑が建立されました。＜香川県農林部編「農林業の石碑～先人の遺業をしのぶ～」1981 年など＞

小津森池
copyright©2013西国災害アーカイブス

土岐六蔵翁頌徳碑


土岐六蔵翁頌徳碑
小津森池
小津森池
椎尾
中新田
中筋
西谷
綾歌町岡田下
一本木
長者原
天満
小津森
小椎尾
原村
中央
岡田駅
天神
宿毋
射場
平尾
100 m

（地理院地図に加筆）

Vol. 68（2018.2.20）徳をたたえる②

■俵原池を築いた松田喜三郎（愛媛県松山市）

昭和 9 年（1934）、日照りが続き、ひどい干害が起こりました。少ない地下水を汲み上げ、杓ややかんで稲にかける農家の人もいましたが、稲はほとんど枯れ、収穫は平年の半分もありませんでした。この様子を見て、国会議員で北条町長の松田喜三郎はため池をつくることを決心し、国や県に働きかけ、地元の人々にも協力を求めました。困難な問題が次から次へと起こりましたが、松田らは奔走して説得を続けました。その結果、俵原（たわらばら）池の建設は昭和 12 年（1937）に県の事業として始められ、延べ 14 万 3,600 人の労力をかけて昭和 17 年（1942）に完成しました。これにより難波、正岡、北条の約 500ha の水田は安心してつくることができるようになりました。先人の働きをたたえ、昭和 33 年（1958）に松田喜三郎翁頌徳碑が建立されました。＜北条市のくらし編集委員会編「北条市のくらし」1999 年など＞

俵原池

松田喜三郎翁頌徳碑

（地理院地図に加筆）

Vol.69（2018.3.20）堤防への思い①

堤防への思い

河川の堤防がこんにちの姿になるまでには、長い歴史があります。その時代ごとに置かれた条件の中で、水害から暮らしを守るために、人々は懸命に努力、工夫してきました。徳島県海陽町と香川県さぬき市の例をご紹介します。

■海部川の奥浦堤防（徳島県海陽町）

徳島県海部町（現海陽町）奥浦は海部川右岸河口部に位置し、洪水時には海部川の濁流が流れ込み、人々は身一つで小高い山に駆け上ることを余儀なくされていました。奥浦の住民にとって堤防を築くことは悲願でしたが、藩政時代には実現されませんでした。明治になって、戸長・岡川又五郎ら先覚者の働きにより、奥浦堤防（延長 132 間）が県営事業として施工されることになりましたが、総工費 4,570 円のうち 1,160 円の地元負担をどのように捻出するかが課題でした。奥浦の人々は幾度も寄り合いを開いて知恵を絞り、楠神社のご神木の楠を売却して地元負担金に充てることにしました。工事は明治 23 年（1890）5 月に起工、9 月に完成しました。しかし、明治 25 年の洪水を機に、対岸からの請願により奥浦堤防は一部を残して取り払われました。＜海部町史編集部編「海部町史」1971 年＞

楠神社

楠神社の治水記念碑

（地理院地図に加筆）

Vol. 69（2018.3.20）堤防への思い②

■鴨部川の堤防（香川県さぬき市）

明治 17 年（1884）8 月 25 日、香川県鴨部下荘村（現さぬき市）で、烈風が起こり、波涛が狂奔し、堤防が決壊しました。家屋は流され、稲や甘藷など作物すべてが被害を受けました。人々は窮乏のどん底に陥りましたが、村民一同相謀り金穀を集めて被害の救済に当たりました。このことが聖聞に達して下賜金を賜いその難を救恤されました。そのことに人々は皆感激しました。鴨部川の土手に建つ水害記念碑には、天変地異は人の力では制御し得ないようであるが、なせばなるで、西洋の諸国では水利をよくし、オランダでは最長の堤防を固め人々を海より低い土地に居住させており、わが讃岐の人も心を一つにして堤防の安全に力を致し、長く安穏を保ち、この惨状を忘れないようにしたいと記されています。＜志度町史編さん委員会編「新編志度町史下巻」1986 年など＞

（地理院地図に加筆）

四国災害アーカイブスの概要

■利用の方法

四国災害アーカイブスは､インターネットを通じて利用していただきます。

四国災害アーカイブス http://www.shikoku-saigai.com

■収録されている災害データ件数

四国災害アーカイブスに収録している災害データ件数は、29,090 件です（平成 30 年 4 月現在)。

■収録されている災害情報の内容

災害の種類	1)地震・津波　6)雪害 2)土砂災害　7)火山災害 3)渇水　8)大規模な火災 4)風水害　9)その他 5)高潮
災害情報の概要	災害の状況、被害の様子、地域の人々の対応、被害軽減の取り組み、等
情報収集の範囲	四国で被害が出た災害で、時代が特定できるもの
情報収集対象物	上記の情報を記載している印刷物または電子データ、および現地調査情報 ・市町村史、郷土史　・事業誌 ・災害記録、災害体験集　・写真集 ・学術論文、雑誌論文　・その他文献等
関連情報	・災害現場、石碑、痕跡等の位置情報及び写真 ・原資料ＰＤＦ（著作権者から許諾が得られた場合）

■四国災害アーカイブスでお伝えしたいこと

四国災害アーカイブスで、皆さまに以下の３つのことをお伝えできればと考えています。

①身近な所に災害の歴史があります

平成 23 年に東日本大震災が発生し、地震・津波への関心が高まっていますが、四国では過去に地震・津波だけではなく、風水害、土砂災害、高潮、渇水などさまざまな災害がたびたび起こってきました。皆さんの身近な所にも災害の歴史があります。

②人々が災害に立ち向かってきた歴史があります

災害に対して、人々はただ手をこまねいていただけではありません。できるだけ災害が起こらないように、またできるだけ被害が大きくならないように、その時々に応じた取り組みが行われてきました。先人の努力や工夫の積み重ねの上に、今日の四国があります。

③災害にまつわる石碑や痕跡などが各地にあります

各地に災害にまつわる石碑や痕跡などがあります。石碑には子孫に災害の教訓を伝えたいという先人の強い思いが込められています。皆さんが災害にまつわる石碑や痕跡を訪ね、改めて災害や地域のことを考えるきっかけにしていただけるよう、できるだけ現場の地図や写真を提供しています。

メールマガジン配信中

四国災害アーカイブスのメールマガジンを毎月発信しています。メールマガジンの受信を希望される方は下記にメールをお送りください。
E-mail: info@shikoku-saigai.com

アーカイブスあらかると
Vol.58～69（2017年4月～2018年3月）

四国災害アーカイブス事務局
（一般社団法人　四国クリエイト協会）
〒760-0066　香川県高松市福岡町3-11-22
電話 087-822-1676　FAX 087-823-8569
http://www.shikoku-saigai.com

2018.4